

令和4年度農作物病虫害発生予察技術資料第7号

令和5年(2023年)3月3日
山口県病虫害防除所
山口県農林総合技術センター

イチゴのアザミウマ類の発生状況と防除対策について

現在、イチゴほ場でアザミウマ類の発生が増加しています。

今後、本虫による果実被害の発生が予想されるため、下記のとおり防除対策の徹底をお願いします。

記

1 発生状況と今後の予想

- (1) 2月24日～28日の巡回調査では、アザミウマ類の発生ほ場率40.0%（平年18.0%）、寄生花率5.9%（平年1.5%）で1月下旬の調査時から急増した（図1）。
- (2) 2月下旬の発生ほ場率は過去10年間で最も多かった（図2）。
- (3) 主要種はヒラズハナアザミウマで（写真1）、一部ほ場では密度が急増し、幼虫の発生が認められた。
- (4) 福岡管区気象台（3月2日発表）の1か月予報では、気温は高いとされ、本虫の増殖に好適な気候が続くことが予想される。そのため、果実被害（写真2）が発生する恐れがある。

2 防除対策

- (1) 施設内に青色または黄色の粘着トラップを設置して本虫の発生状況を確認する。
- (2) 花をよく観察し、寄生花率が10%以上となった場合には、直ちに薬剤を散布する。
- (3) 防除薬剤は別表を参照する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤散布後は防除効果を確認し、効果が低い場合には他剤により再度防除を行う。
- (2) 同一薬剤の連用、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (3) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチへの安全日数を考慮する。
- (4) 適正な薬剤散布作業を実施するとともに、農薬使用基準を遵守する。

お問い合わせ先

TEL (083) - 927 - 0211 (代表)

FAX (083) - 927 - 0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

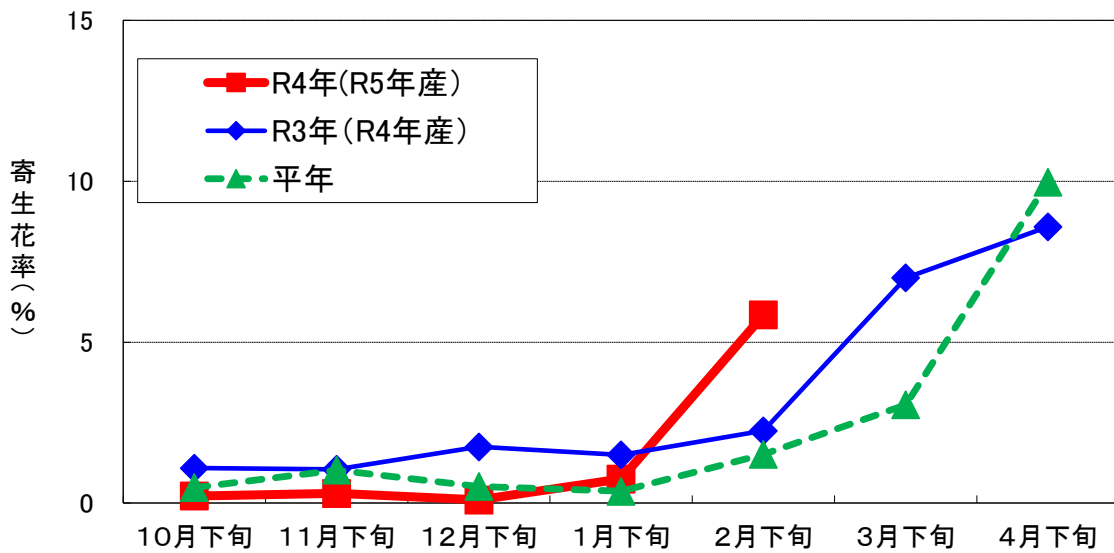


図1 アザミウマ類の寄生花率の推移

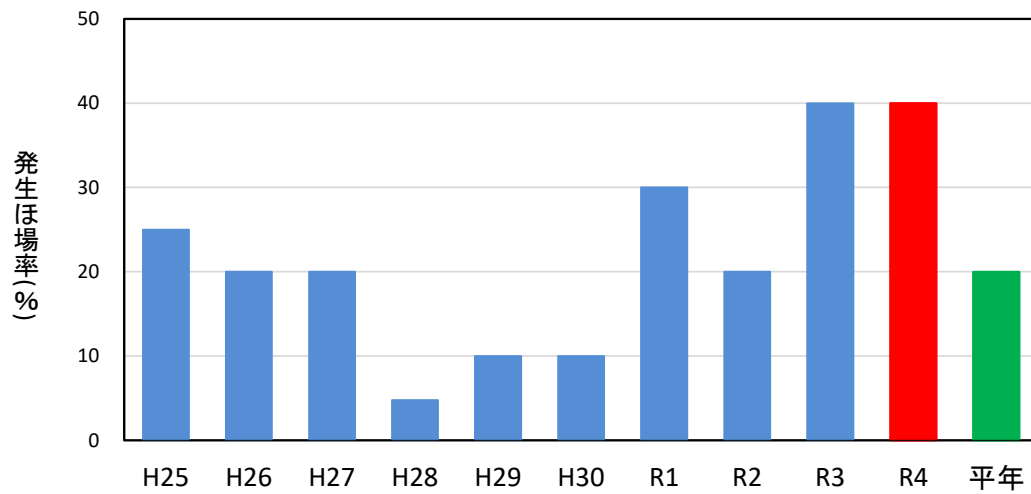


図2 発生ほ場率の年次推移(2月下旬)



写真1 イチゴの花に寄生するアザミウマ類成虫



写真2 アザミウマ類の被害を受けた果実

表 イチゴのアザミウマ類に登録のある主要な薬剤

殺虫剤 コード	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	ミツバチの 安全日数
3A	アーデント水和剤(普)*	1000倍,150~300リットル /10a	収穫前日まで	4回以内	散布	2~3日
4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	翌日
	モスピランジェット(劇)	400立方メートル当たり50g	収穫前日まで	2回以内	くん煙	翌日
5	スピノエース顆粒水和剤 (普)	5000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3~7日
	ディアナSC(普)	2500~5000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3~7日
15	カスケード乳剤(普)	4000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
	マッチ乳剤(普)	1000~2000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	翌日
23	モベントフロアブル(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
28	ベネビアOD(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日
30	グレーシア乳剤(普)	2000倍,100~300リットル /10a	収穫前日まで	2回以内	散布	翌日
34	ファインセーフフロアブル (劇)	1000~2000倍,100~300リッ トル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	翌日